Nagoya Linguistics(名古屋言語研究)
2013 Vol.7,pp.29-38

ヤスイ・ニクイが表す「難易」の下位分類について

ー「物理的難易」と「心理的難易」ー

鈴木基伸（名古屋大学大学院文学研究科博士研究員）

要旨

本稿では，形容詞性接尾辞ヤスイ・ニクイによって表される「難易」には，物理的な「容易・困難さ」を表す「物理的難易」と，心理的抵抗感の有無を伴う「心理的難易」があることを主張する。この「物理的難易」と「心理的難易」は語用論的に解釈されるものだが，出来事達成までの時区間の有無，構文変更に伴う格交替および主題化がそれらの解釈に影響することを，例文の観察を通して述べる。ヤスイ・ニクイが標示する出来事の達成までに時区間が存在し，物理的要因が想定できる場合には「物理的難易」の読みに，それらの時区間を想定できない場合，「心理的難易」の読みが成立することを述べる。また，ヤスイ・ニクイ文において，非ガ格名詞句がガ格へと格交替，および主題化されている場合には「物理的難易」の読みに，本来の格が保持されている，また，主題化されていても本来の格でも不自然さを伴わないような場合，「心理的難易」の読みが成立することを述べる。

1．はじめに

形容詞性接尾辞ヤスイ・ニクイは、意志動詞に接続して「難易」の意味(1)(2)を、無意志動詞[1]に接続して「傾向」の意味(3)(4)を表す。

(1)　学生はこの辞書が使いやすい。
(2)　水泳選手にはこの台からが飛び込みにくい。
(3)　若者は誤植を見落としやすい。
(4)　慎重な人は判断を誤りにくい。　　（以上，井上 2005）

「傾向」を表す(3)(4)のヤスイ・ニクイは，「～しがちだ」「～しがちではない」に置き換えが可能であるが，「難易」を表す(1)(2)はそれができない。

(1)' *学生はこの辞書が使いがちだ。
(2)' *水泳選手にはこの台からが飛び込みがちではない。
(3)'　若者は誤植を見落としがちだ。
(4)'　慎重な人は判断を誤りがちではない。

このように，ヤスイ・ニクイには「難易」と「傾向」という２つの用法を認めることができるが，文脈によっては，「難易」を表すヤスイ・ニクイ文において，「心理的抵抗感があること・ないこと」と解釈可能な場合がある。まず，「心理的抵抗感があること」が解釈可能な例を示

[1] 杉本（1995）によれば、「てみる」「やむをえず～」は意志動詞との積極的な共起を機能として持つとしているため、「てみる」「やむをえず～」が共起可能な動詞を意志動詞として考察の対象とする。

す。

(5)　この道は一人では歩きにくい。
(6)　先生の前でタバコを吸いにくい。

(5)は,「この道を一人で歩くこと」が物理的に困難であるわけではなく,実現は可能であるが,それを実行するにあたって「心理的抵抗感」を動作主が感じ,それによって動作の遂行が困難になっていることが表されている。(6)も同様に,「先生の前でタバコを吸うこと」によって動作主が心理的抵抗感を感じるという解釈が可能である。次に,「心理的抵抗感がないこと」の解釈が可能な例を示す。

(7)　この道は明るくて一人でも歩きやすい。
(8)　友達の前ではタバコを吸いやすい。

これらは,「一人で歩くこと」「タバコを吸うこと」に対して,動作主が心理的抵抗感を感じていないことが表されており,それによって動作の遂行が容易であると判断されているのである。このような,「心理的抵抗感の有無」の解釈が可能となるヤスイ・ニクイは,次のように「憚られる」「憚られない」による置き換えが可能である。

(5)'　この道は一人で歩くことが憚られる。
(6)'　先生の前ではタバコを吸うことが憚られる。
(7)'　この道は明るくて一人で歩くことが憚られない。
(8)'　友達の前ではタバコを吸うことが憚られない。

ヤスイ・ニクイ文における「心理的抵抗感の有無」は,語用論的に導かれる解釈であるといえる。(5)は,「歩く」という行為を遂行する場合,「一人で」という条件によって物理的に困難になるとは考えにくく,「一人で歩くことによって痴漢・強盗などの危険が伴うかもしれない」という理由による「歩くことの困難さ」が表されているとの解釈が成立する。それゆえ,「心理的抵抗感」が表されていると読み取ることが可能なのである。(6)も同様であり,「先生の前でタバコを吸うこと」は動作主にとって「気まずい」「気が引ける」行為であるという解釈が成り立つからこそ,「心理的抵抗感があること」が表されているとわかるのである。「難易」を表すヤスイ・ニクイには,このような「心理的抵抗感の有無」を伴わないものもあるが,それも,語用論的に解釈されるものだといえる。

(9)　この道は舗装されていて{歩きやすい／??歩くことが憚られない}。
(10)　この道は舗装されていないので{歩きにくい／??歩くことが憚られる}。

これらはいずれも「心理的抵抗感の有無」が表されているとは解釈されにくい。なぜなら,「道が舗装されている,されていない」という条件は,動作遂行における物理的な「容易さ」「困難さ」を引き起こす要因であるため,それによって「憚られない・憚られる」というような「心·

理的抵抗感の有無」が生じるとは考えにくいのである。

以上のことを踏まえると，ヤスイ・ニクイが表す「難易」には，語用論的解釈によって導き出される「心理的抵抗感の有無を伴う難易（以下，「心理的難易」と称する）」と，「心理的抵抗感の有無を伴わない難易（以下，「物理的難易」と称する）」という２種類の難易を認めることが可能である。先行研究（Inoue（1978）[2]、佐藤（1988）[3]、加藤（2001））では、これらの「難易」は区別されていないが，本稿では，この「心理的難易」と「物理的難易」の区別は，ヤスイ・ニクイの用法に関わる，見逃すべきではない分類だと考える。上述したように，この「難易」の下位分類には語用論的条件が関わるが，例文の観察・分析を行うと，動詞のアスペクト的性質，主題化の有無といった条件も関与していることがわかる。そこで本稿では，ヤスイ・ニクイが表す「難易」は，「心理的難易」と「物理的難易」に分類が可能であることを主張し，それらの解釈に関わる非語用論的な条件を明らかにすることを目的とする。

２．出来事達成までの時区間の有無

２．１．物理的要因と心理的要因

ヤスイ・ニクイが表す「難易」に，「心理的抵抗感の有無」が関与する場合としない場合があることからわかるように，動作遂行の「難易」に関係する要因には，心理的なものと物理的なものがあるといえる。心理的要因が関与し，動作遂行が困難となる場合，それらの行為は，動作主にとって能力的には遂行可能だといえる。

(11)　人前では恥ずかしくて喋りにくい。
(12)　ダイエットをしているので，炭水化物は食べにくい。

(11)における「人前で話す」，(12)における「炭水化物を食べる」という行為は，動作主にとって，能力的には何れも遂行可能なものである。しかしながら，それを遂行することによって心理的不快感・苦痛を感じることが予測されるため，それらの動作遂行が「憚られる」のである。一方，物理的要因の関与によって動作の遂行が困難になる場合，能力的な困難さが表される。

(13)　ガムテープで口を塞がれているので喋りにくい。
(14)　うどんはスプーンで食べにくい。

これらは，「喋る」「うどんを食べる」という行為が，「ガムテープ」「スプーンで」という物理的要因が関与することにより，動作主の行為遂行能力が十分に発揮できないことが表されている。この場合，心理的な要因が関与しているわけではないので，「憚られる」という解釈は成立しにくい。

---

[2] Inoue（1978）は、意志・無意志という言葉を用いず、「±自己制御可能（self-controllable）」という用語を用いている。仁田（1988）は、これと同様の、「自己制御性」という概念を用いて意志動詞と無意志動詞の定義を行っており、自己制御が可能か否かということは、意志・無意志と関係するため、本稿では、「＋自己制御可能」は意志動詞、「－自己制御可能」は無意志動詞として扱うことにする。

[3] 佐藤（1988）が指摘しているように、意志動詞であっても「傾向」の意味になることはある。従って、意志動詞であるから「難易」、無意志動詞であるから「傾向」の意味に必ずしもなるわけではないが、本稿ではそれらの例は考察の対象としない。

このように，動作の「難易」に関与する要因には，心理的なものと物理的なものがあることがわかる。物理的要因が関与し，動作の遂行が困難となる場合，動作主にとって，その行為は「行為遂行の意志はあるが，物理的に難しい」ということになる。そして，心理的要因が関与し困難となる場合，「動作の遂行は能力的に可能であるが，遂行したくないという意志が生じる」ということになる。反対にそれらの要因によって動作の遂行が「容易」になる場合，物理的要因では，「行為遂行の意志があり，物理的にも容易」，心理的要因では，「動作の遂行は能力的に可能であり，遂行したくないという意志は生じない」となる。ニクイ（困難）に関わる要因を阻害要因，ヤスイ（容易）に関わる要因を促進要因とし，以下の表にまとめる。

表１　難易の種類とその要因

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>物理的要因</td><td>心理的要因</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物理的
難易</td><td>ヤスイ</td><td>アリ（促進要因）</td><td rowspan="2">ナシ</td></tr>
<tr><td>ニクイ</td><td>アリ（阻害要因）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">心理的
難易</td><td>ヤスイ</td><td rowspan="2">ナシ</td><td>アリ（促進要因）</td></tr>
<tr><td>ニクイ</td><td>アリ（阻害要因）</td></tr>
</table>

２．２．物理的要因が成立するために必要な出来事達成までの時区間

ヤスイ・ニクイが物理的難易を表していると解釈されるためには，物理的要因が関与する，または関与しうることが聞き手にとって理解可能でなければならない。したがって，物理的要因が関与すると考えられるような動作（動詞）の場合，それは物理的難易を表していると解釈されやすい。

(15)　この靴は軽くて走りやすい。
(16)　このコーヒーは苦味が少なくて飲みやすい。
(17)　新聞の文字は小さくて読みにくい。
(18)　この包丁はさびていて切りにくい。

これらは何れも，「軽くて」「苦味が少なくて」「小さくて」「さびていて」の部分が物理的要因を表しているが，ヤスイ・ニクイが接続している動詞は何れも継続動詞[4]であり，その動作の遂行に伴って物理的要因が関与することを想定しやすい動詞であるといえる。したがって，(15~18)は，物理的要因が示されていなくても，物理的難易を表していると解釈される。

(15)'　この靴は走りやすい。
(16)'　このコーヒーは飲みやすい。
(17)'　新聞の文字は読みにくい。
(18)'　この包丁は切りにくい。

(15~18)は継続動詞の例であるが，「叩く」「打つ」のように反復によって動作の継続が可能で

[4]工藤（1993）によれば「非内的限界動詞」に分類され，開始限界後は終了限界を持たないものである。

あり，物理的要因を想定可能な場合，物理的難易が表されていると解釈される。

(19)　このドラムスティックは重くて叩きにくい。
(20)　このキーボードはキートップが低くて打ちやすい。

この場合も，「重くて」「キートップが低くて」という物理的要因によって物理的難易が表されていることがわかるが，それらなしでも物理的難易の解釈が優先されるといえる。また，反復が容易でない瞬間動詞であっても，その瞬間の時点に至るまでに時区間があり，行為の継続が読み取れ，そこに物理的要因が想定可能な場合，物理的難易のヤスイ・ニクイと見なされる。

(21)　この金庫の鍵は複雑で開けにくい。
(22)　冷蔵庫が大きすぎてちょうどいい位置に置きにくい。
(23)　最近新幹線ができて名古屋から鹿児島まで行きやすい。

「開ける」「置く」「行く」は瞬間動詞であり，反復も容易ではないが，その行為が達成されるまでに物理的要因が関与することが十分に考えうる。

このように，動詞，またはヤスイ・ニクイが評価を与えている事態の性質から，物理的要因が想定可能である場合，それらのヤスイ・ニクイは，物理的難易を表していると解釈されるわけだが，反対に，それらの物理的要因が想定できない場合，物理的難易を表しているという解釈は成立しえないことになる。したがって，その場合，心理的難易を表すという解釈にならざるを得ない。これまで述べてきたような，継続動詞，反復しうる瞬間動詞，達成まで時区間を想定しうる瞬間動詞の場合，物理的難易を想定しうるわけだが，出来事に，動作の継続部分を全く認めることができないような動詞の場合，そこに物理的難易を想定できない。そのような動詞の例として，所有権の移動を表すような動詞が挙げられる。

(24)　こんな高い指輪は貰いにくい。
(25)　原価 5 円のものを 250 円で売りにくい。
(26)　どんなものでも食べる太郎なら，賞味期限が切れているものをあげやすい。
(27)　最近値段が下がって，野菜を買いやすくなった。

「貰う」「売る」「あげる」「買う」は，所有権の移動を表す動詞であるため，そこに物理的要因が伴うと考えることはできない。つまり，この場合，「難易」の要因となるのは，心理的なものでしかありえない。それゆえ，(25~28)は心理的難易を表していると解釈される。もちろん，(24~27)における明示的な心理的要因がなくとも，心理的難易と解釈され，「憚られる」「憚られない」によってパラフレーズが可能である。

(28) a. 指輪は貰いにくい。
　　 b. 指輪を貰うことは憚られる。
(29) a. 原価 5 円のものを売りにくい。
　　 b. 原価 5 円のものを売ることは憚られる。

(30) a. 太郎ならあげやすい。
　　b. 太郎ならあげることが憚られない。
(31) a. 野菜を買いやすい。
　　b. 野菜を買うのが憚られない。

所有権の移動を表す動詞以外にも，動作の継続部分が想定できず，物理的難易を伴うと考えられないものに，「～と言う」「～と言い出す」「切り出す」「出す」などがある。

(32)　「さようなら」と言いにくい。（＝言うのが憚られる）
(33)　お金を貸してと言い出しにくい。（＝言い出すのが憚られる）
(34)　別れを切り出しにくい。（＝切り出すのが憚られる）
(35)　このコーヒーカップならお客さんに出しやすい。（＝出すのが憚られない）

このように，物理的要因が想定可能な場合，物理的難易の解釈に，物理的難易の想定が不可能な場合，心理的難易の解釈になるのであるが，この物理的要因想定の可否は，これまでの例からわかるように，動作継続部分の有無が関与している。つまり，動作の継続部分（時区間）があれば，それに付随する物理的要因が想定可能となり，物理的難易の解釈となるが，そのような時区間が認められない場合，難易に関わる要因は心理的なものにならざるをえなくなり，心理的難易が表されるようになるのである。このことは，ヤスイ・ニクイの難易解釈に，出来事達成までの時区間の有無というアスペクチャルな要素が関与していることを意味する。

3．格交替・主題化と難易解釈の関係

ヤスイ・ニクイ文では，可能文[5]と同様，非ガ格からガ格への格交替が見られる。

(36)　その本を読む。
(37)　その本を読みやすい。
(38)　その本が読みやすい。
(39)　この靴で走る。
(40)　この靴で走りにくい。
(41)　この靴が走りにくい。
(42)　新宿から吉祥寺に行く
(43)　新宿から吉祥寺に行きやすい。
(44)　吉祥寺が新宿から行きやすい。

ガ格へと交替した名詞句は，さらに，主題化され，有題文となる。

(45)　その本は読みやすい。

[5] (i)〔太郎が英語の本を読む〕コト
(ii)〔太郎に英語の本が読める〕コト
(iii)〔太郎が英語の本が読める〕コト　　（以上，渋谷 1993:43）

(46)　この靴は走りにくい。
(47)　吉祥寺は新宿から行きやすい。

ヤスイ・ニクイが元来形容詞であり，状態述語の性質を持つことを考慮すれば，主題化された有題文が難易文の無標形式と言うことができよう[6]。有題文の場合，ヤスイ・ニクイは，主題名詞句の属性を表していると捉えることができる。(45)では，「その本」が「読みやすい」，(46)では「この靴」が「走りにくい」，(47)では「吉祥寺」が「新宿から行きやすい」という性質・属性を有していることが表されている。これらは，主題化されたヤスイ・ニクイ，またはガ格へと格交替した(38)(41)(44)において成立する解釈である。一方，本来の格が保持され，ガ格への格交替および主題化が生じていない(37)(40)(43)においては，ヤスイ・ニクイが名詞句に対する性質を表していると捉えることはできず，事態そのものにヤスイ・ニクイの評価が与えられていると考えることができる。この違いを以下のように示す。

表２　格保持される場合とガ格化・主題化される場合との構造的差異

格保持	ガ格化，主題化
この本を読む＋ヤスイ	この本＝読みやすい
この靴で走る＋ニクイ	この靴＝走りにくい
新宿から吉祥寺に行く＋ヤスイ	吉祥寺＝新宿から行きやすい

この，格が保持されている場合と，主題化（以下，ガ格化は主題化に含める）されている場合とでは，ヤスイ・ニクイの解釈が異なる。佐藤（1988）が指摘しているように，格が保持されている場合は「難易」の他に「傾向」の読みも可能となる。

(48)　学生は（分厚い辞書よりもつい手軽な）この辞書を使いやすい／がちである。
(49)　歩道のある通りのほうが安全なのはわかっているが，人はつい近道をあるきやすい／がちだ。
(50)　学生は好きな科目だけを勉強しやすい／がちだ。　　（以上，佐藤 1988:72）

このことから，格の交替および主題化は，ヤスイ・ニクイの「難易」と「傾向」の解釈に関与するが，この違いは，「難易」の下位分類である「物理的難易」と「心理的難易」の解釈にも影響を及ぼす。前節で，出来事達成までの時区間が設定できない場合，心理的難易の解釈になることを述べたが，時区間を設定できる場合であっても，物理的難易の他，心理的難易が表されることもある。

[6] 益岡・田窪（1992）が述べた，述語の種類と主題化との関係について以下に示す。

表　述語の種類と主題化

述語の種類	有題か無題か	例
状態述語	一般的に有題文	・日本人は勤勉だ。 ・花子は忙しい。
動態述語	有題文にも無題文にもなりうる	・新幹線は時速 200 キロぐらいで走る。（主題の属性） ・バスが来た。（現象文） ・太郎は，昨日の午後私に会いに来た。（主題の設定）

(51)　人前では恥ずかしくて喋りにくい。(=(11))
(52)　ダイエットをしているので，炭水化物は食べにくい。(=(12))

この場合，物理的・心理的難易のどちらを表しているかは，すでに述べたように，語用論的解釈によって判断することが可能であるが，本稿では，格の交替および主題化も関与すると考える。

まず，ヤスイ・ニクイが物理的難易と解釈される例を再掲する。

(53)　この靴は軽くて走りやすい。(=(15))
(54)　このコーヒーは苦味が少なくて飲みやすい。(=(16))
(55)　新聞の文字は小さくて読みにくい。(=(17))
(56)　この包丁はさびていて切りにくい。(=(18))

これらは，何れも有題文であり，主題名詞句「この靴」「このコーヒー」「新聞の文字」「この包丁」に対して「走りやすい」「飲みやすい」「読みにくい」「切りにくい」という性質・属性があることが表されている。次に，心理的難易の例を再掲する。

(57)　こんな高い指輪は貰いにくい。(=(25))
(58)　原価5円のものを250円で売りにくい。(=(26))
(59)　どんなものでも食べる太郎なら，賞味期限が切れているものをあげやすい。(=(27))
(60)　最近値段が下がって，野菜を買いやすくなった。(=(28))

(57)は有題文であるが，(58~60)は無題文であり，「原価5円のものを250円で売る」「賞味期限が切れているものをあげる」「野菜を買う」という事態に対して難易の評価を与えていると解釈できる，本来の格が保持されているものである。(57)は，主題化された「こんな高い指輪」に，本来の格を用いても，その意味に大きな変化はない。

(57)'　こんな高いものを貰いにくい。(高いものを貰う)

このように，心理的難易が表されている場合，本来の格が保持されている，または本来の格を用いても意味的な変化がないことがわかるが，(53~56)の物理的難易のヤスイ・ニクイ文に対して，本来の格を用いると，適格性が劣るようになる。

(53)' ??この靴で軽くて走りやすい。(この靴で走る)
(54)' ??このコーヒーを苦味が少なくて飲みやすい。(このコーヒーを飲む)
(55)' ??新聞の文字を小さくて読みにくい。(新聞の文字を読む)
(56)' ?この包丁でさびていて切りにくい。(この包丁で切る)

ヤスイ・ニクイの間で，容認度の差は出るものの，どちらも，心理的難易のヤスイ・ニクイの

ように，不自然さを伴うことなく本来の格を用いることはできないといえる。

以上のことから，物理的難易を表すヤスイ・ニクイ文では，主題化が生じており，本来の格を用いることはできず，心理的難易を表すヤスイ・ニクイでは，本来の格が保持されており，たとえ主題化されていても，本来の格を用いることが可能であることがわかる。これが意味することは，格の交替および主題化という構文変更に関わる条件が，難易の解釈に影響を及ぼしている可能性があるということである。

4．まとめと今後の課題

本稿では，ヤスイ・ニクイが表す「難易」に物理的難易と心理的難易があることを主張し，その区別に，出来事達成までの時区間の有無，格交替・主題化という非語用論的な要素が関与することを述べた。まず，「難易」の要因を物理的要因と心理的要因にわけ，物理的要因を想定できる場合に物理的難易の意味に，できない場合に心理的難易の意味になることを述べた。そしてその物理的要因が想定できるか否かは，出来事達成までの時区間が関与していることを述べ，時区間を認めることができる場合は物理的難易の解釈に，できない場合は心理的難易の解釈になることを述べた。

また，ヤスイ・ニクイの「難易」「傾向」に関与する格交替・主題化の問題が，物理的・心理的難易の解釈に影響することを述べ，物理的難易の場合主題化が生じ，本来の格を用いることができず，心理的難易の場合本来の格が保持されている，またはその格を用いることが可能なことから，主題化されている場合は物理的難易の意味に，格が保持されている場合，心理的難易の解釈に傾くことを述べた。この格交替・主題化の有無と物理的・心理的難易解釈の関係をより簡潔に述べれば，主題化された名詞句に対する属性・性質を表す場合物理的難易となり，出来事そのものに対する難易評価を下す場合心理的難易となるということができる。これはいわば，「モノ」に対する評価か，「状況」に対する評価かが難易解釈に影響を及ぼしていると考えることができるが，なぜモノに対する評価が物理的難易となり，状況に対する評価が心理的難易となって解釈されるのかについては明らかにすることができなかった。この問題は，物理的・心理的難易の解釈のみならず，「難易」と「傾向」の解釈にも関わるものであり，ヤスイ・ニクイの機能・用法分析上重要なテーマだといえる。これについては今後の課題とし，最終的には，評価の対象とヤスイ・ニクイが表す意味との相関関係について，理論的構築を行うことを目指したいと考えている。

参考文献

Inoue, Kazuko(1978)"'Tough sentences' in Japanese," John Hinds and Irwin Howard（eds）（1978） pp.122-154.

庵功雄ほか(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』松岡弘（監修） スリーエーネットワーク.

井上和子(1976)『変形文法と日本語（上)』大修館書店.

井上和子(2005)「日本語の難易文をめぐって」『言語教育の新展開』ひつじ書房.

加藤重広(2003)「語用論的に見た『可能』の意味」『富山大学人文学部紀要』38, pp.87-98.

加藤紀子(2001)「日本語の可能・自発と難易文」『意味と形のインターフェース 中右実教授還暦記念論文集』くろしお出版 pp.293-303.

金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」 『言語研究』15, 日本言語学会（金田一春彦（編）（1976）に再

録 pp.5-26）.
工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト』ひつじ書房.
佐藤ちゑ子(1988)「難易文の派生について」『文経論叢』24 弘前大学人文学部 pp.69-88
益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版.